

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972500577		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム ひのきの里		
所在地	高知県高岡郡津野町黒川740番地6		
自己評価作成日	平成27年9月8日	評価結果 市町村受理日	平成27年12月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は国道から川を隔てた高台の中学校跡地にあり、同一法人のデイサービスが隣接しています。茶畑や民家も近く、これまでの生活を継続できる自然環境にあります。事業所の理念にある「共に支えあい、笑顔の見える、穏やかな生活」を実現するため保育所や小学校、中学校、地域住民とのふれあいを大切にし、地区の秋祭りや小学校で行われる「ふるさと祭り」への参加や、保育園児、小学生、中学生やボランティアの訪問の機会を増やし交流を図っています。また、四季に合わせたイベントを企画し、五感を感じていただけるような支援や雰囲気づくりを提供しています。その人らしい暮らしの実現に向け、職員一同、利用者本位の支援の向上に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JiryosyoCd=3972500577-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JiryosyoCd=3972500577-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年10月20日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共に支え合い、笑顔の見える、穏やかな生活」を理念に掲げ、地域との交流、家族と利用者の絆を大切にして、家族の求める「笑顔のある穏やかな生活」を支援する為に、研修や定期的なカンファレンス、日常の職員間の話し合いでの気づきを大切にし、また、地域交流を通して職員の資質を高めながら、よりよいケアを目指している。

事業所の周辺は自然が豊かで民家も近く、隣接のデイサービス事業所を利用しての友人・知人に会う機会にも恵まれている。毎年小学校で開催する「ふるさと祭り」にはほぼ全員の利用者が参加し、多くの地域住民と交流することを楽しみにしている。また、ボランティアや小・中学生の事業所訪問を積極的に受け入れ、小学生の描いた似顔絵を居室に飾って、和みのある部屋にしている。運営面では、町内の特別養護老人ホームとの交流会や同法人グループホームとの連絡会等の情報交換を通じて、事業所の改善に取り組んでいる。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:えびね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とできるような取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合い、生かせるように取り組んでいる。	開設時に職員と共に作成した「共に支え合い、笑顔のある穏やかな生活」を理念とし、玄関など目に付きやすい場所に掲示し、常に理念を掘り下げて話し合い、地域とのつながりや支え合いを大事にしながらケアに活かしている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加したり、小・中学生に訪問していただき交流を深めている。中庭の畑づくりを通して、デイサービス利用者とも交流できている。近所からの野菜等の差し入れもある。避難訓練には地域への声かけもし参加してもらっている。	地区回覧板等で情報を把握し、神祭や防災訓練等に参加している。また、小学校で開催される「いきいきふるさと祭り」には利用者がほぼ全員で参加し、日常的にも散歩やデイサービス参加者と交流するなど、地域交流を大切にしている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の御家族の方や病院の医療相談員、居宅介護支援事業所からの相談なども受けている。また、地域ケア会議にも積極的に参加している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内部監査や実地指導等の結果も報告している。会議で出た意見や検討事項については、職員会で報告し検討している。頂いた意見に対しては実行できるように取り組み、次の会で経過報告をしている。	会議では家族会代表者が2名参加し、事業所の運営報告後、活発に意見を交換している。会議内容は職員に伝達して改善事項等を協議し、次回会議で報告している。議事録は家族へ送付していないが、家族会で報告し、所内掲示板で公表している。	今後、さらに地域に密着した事業所として定着していくために、地域にある各種組織を確認し、地区長など地域の代表者や関係者等に会議への参加を呼び掛けることを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議をきっかけに連携が密に図れるようになり、小さなことでも気軽に相談できる関係が築け、すぐに電話などで確認をとるなどし、サービスの向上につなげている。	運営推進会議には町担当者が毎回参加し、情報や助言を得ており、日常的にも制度関係の相談や利用状況の報告等を通じて関係を築いている。また、町が協力する年3回の町内介護施設との交流会を通じて、町と連携している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、法人内の研修に参加し、研修内容をスタッフ会で共有している。言葉による拘束もしないよう、拘束感のない言葉がけに取り組んでいる。日中は施錠せず、自由な生活ができるよう見守り、寄り添うケアをしている。	法人全体で身体拘束のないケアに取り組んでおり、法人主催の研修に参加した職員が、研修内容を伝達し共有している。自主研修では、言葉による拘束などを具体例に基づき話し合い、日頃のケアに活かしている。玄関は施錠せず、安全に配慮して利用者を見守っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会などで事例を用いて話し合いを行い、身体拘束をしない、尊厳を支えるケアを提供できるように取り組んでいる。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、勉強会を受けた職員が伝達者になり職員会で周知をしている。入居の折に保証人様に説明をしている。現在、利用はないが必要に応じて援助できる体制を確保している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時や契約時に文書を見ながら時間をかけて、質問疑問等は解決できるように説明し同意を得ている。また、随時電話等でも相談を受け付けている。また改定時にも同様に同意を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回設け、苦情や要望はないか確認し、また、ご家族だけで話し合う場も設けている。苦情は事業所にとって宝と考え、改善するように取り組んでいる。家族会で出た問題は職員会、運営推進会議でも取り上げて話し合いをしている。	年3回家族会を行い、家族のみで話し合う時間を設けている。面会時は必ず家族と面談して要望等を聞いており、家族の提案でバーベキューを行い利用者に喜ばれるなど、実践に結び付けている。利用者からも、日常のケアの中で希望や要望を聞き、反映に努めている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。	職員会は月2回に分けて、多くの職員が参加できるようにし、介護上の相談事項の有無、職員の言動の振り返り、転倒等の危険防止対策などを話し合い、ケアの向上に活かしている。管理者は職員と話しやすい環境を作り、行事の企画、必要物品の購入などを職員の意見を聞き決定している。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた法人の勉強会へ参加している。年2回の人事考課を行い、向上心が持てるよう働きかけている。個別面談を行いストレスを一人で抱え込まないように支援している。また、法人内にも相談窓口を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームとは、毎月勉強会を行っている。外部への研修にも積極的に参加し、情報交換している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面接を行い、不安を軽減できるように努めている。また、待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるよう配慮している。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の介護不安や状況をよく聞き取り、把握し気軽に相談ができるよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターや居宅介護支援事業者などを通じて相談が多く、緊急性のある方については、法人内、外と連絡調整し入居できるように迅速な対応をしている。また、市町村にも困っている方の相談、受け入れをしていただくように働きかけている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の言動や行動からその時の想いを探り、根本にある喜びや不安などを理解するよう努めている。また、一緒に生活することで入居者様に教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族にも可能な限り、利用者の生活に関わっていただけるように支援している。また、御家族ができることを申し出ていただくことも多く、事業所と御家族が協力関係のもと利用者の人生を支えるよう取り組んでいる。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう、友人に訪問してもらったり、理美容店の利用、地域の行事への参加など、機会をつくり人との交流の継続を支援している。	入居時にこれまでの生活習慣、楽しみにしていたこと、友人関係などを聞き取り、それらを継続できるよう支援している。馴染みの理美容院を利用したり、家族の協力による地元の行事への参加や、友人の訪問時の交流等を通して関係継続の支援をしている。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ないところは出来る人が補い、お互いに協力しあって生活が出来るように一緒に過ごせる環境や場面作りを行っている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族から次の施設入居などの相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がくつろいでいる時間や入浴時に、希望を聞くようにしている。意思疎通の困難な利用者は、表情から汲み取ったり、御家族から情報を得ている。	利用者には日常のケアの中で暮らしの希望や要望の把握に努め、読書やぬり絵など利用者それぞれの好むことに応えながら、家族が期待する利用者の元気な暮らしが実現できるよう、利用者の希望に沿ったケアに努めている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族、関係者から、これまでの生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞きとり、共有するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の行動や小さな動作から感じとり、本人の全体像を把握して本人が出来ることを見出せるよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いを日々把握し、家族の意向は面会時などに聞いて、全職員でモニタリングを実施している。また、担当を決め、「センター方式」の様式により利用者の状況をより詳細に把握し、介護計画の充実に取り組んでいる。	利用者・家族の意向、職員の意見等を踏まえて計画作成担当者が介護計画を作成し、職員でカンファレンスを行って修正後、家族に説明し了解を得ている。モニタリング時にはセンター方式を用いて本人の思いや意向の把握に努め、家族との面談も行い、利用者個々の実情に即した計画になるように取り組んでいる。	利用者へのアセスメントの段階で、思い等を明確に記載できる様式の検討や、日常のケアの中で思いや意向を表す発言があったときは、介護記録に記載して共有し、計画に反映していくことを期待したい。
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、ご本人やご家族様が安心して生活出来るように支援している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をきっかけに地域との関係も密接になり、地域のボランティア、民生委員、自主防災組織などと協力しながら行事や防災訓練も実施できている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明により、利用者、家族の納得を得て協力医療機関がかかりつけ医になっており、月2回の往診以外にも必要な受診を支援している。専門医の受診も必要によりできるよう支援している。	殆どの利用者が町内2カ所の診療所のどちらかを利用しており、家族・利用者の納得を得て協力医療機関である診療所をかかりつけ医にしている。月2回の往診や訪問看護を受けて健康管理を行い、眼科等専門医の受診には、家族又は職員が同行し、受診結果は医療機関からの返信により確認し共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には小さなことも気軽に相談でき、医療機関との連携もとれており、適切な看護、受診ができるよう支援できている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に沿って、事業所で対応できるケアについて家族に説明し、同意を得ている。緊急時は、協力医の往診もあり、法人内の看護師の協力も得ている。研修会にも参加し体制整備を図っている。	入居時に看取りの指針に沿って家族に説明し、同意を得ている。家族の気持ちの変化に留意し常に確認を心がけている。これまでに家族、職員、医療機関が連携した看取り事例があり、経験の中での反省点や学びを確認し、今後のケアに活かすようにしている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、対応方法を身に付けたり、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行い、緊急時に対応できる実践力を身につけている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震の避難訓練を年3回以上、消防署の協力を得て実施している。その他にも風水害なども含め自主訓練を行っている。避難訓練には地域の方にも声をかけ協力を得ている。	火災、地震時の避難訓練は消防署の協力を得た訓練を年3回、自主訓練を年3回実施し、落下物や障害物を想定して職員が一刻でも早く、利用者を避難させる訓練を実施している。地域にも呼びかけ4人の住民が参加している。今後は、自主訓練時に地域の消防団への呼びかけを考えている。非常食は3日以上を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でもプライバシーや尊厳を損ねるような声かけをしないように話しあい、徹底している。	法人全体で職員の接遇に取り組んでおり、法人が作成したチェック表を用いて行動の自己評価を行い、利用者のプライバシーや尊厳を損ねるような言動の有無に気づいたり、日常のケアの振り返りの中で利用者の尊厳を守るよう徹底を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、自己決定をしてもらうことを大切にしている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースを大切にし、畑仕事や散歩など希望に沿ってやりたいことを行っていただけるよう支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で決めており、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿った支援を心がけている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士による献立だが、利用者の希望や庭で育った野菜など収穫した旬のものを使用し献立を変更することもある。利用者は下準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。	栄養士が作成した献立表に基づき、毎日業者から食材が配達されているが、利用者の希望等により献立の変更も行っている。利用者は調理の下準備や片づけを職員と一緒にやり、職員は見守りながら、利用者が自分で食べることを大事にして食事を楽しめるよう支援している。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない方には、補食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、管理栄養士とも相談し食の支援を行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操や、毎食後の口腔ケアなどを行いケアに努めている。口腔ケアは本人の力に合わせ、確認し援助するようにしている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁あるなしに関わらず、日中はトイレ誘導を基本とし、排泄パターンを把握して職員が見守りながら、トイレでの排泄ができるよう支援している。	ポータブルトイレは使用せず、トイレでの排泄を基本に支援している。利用者の殆どが、紙パンツにパッドを使用しており、利用者個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、失敗のないよう心がけている。布パンツを使用し、排泄が自立している利用者は数人いる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や、家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿い、体調に留意しながら入浴を支援している。入浴拒否のある利用者も、時間や日程の変更など行い、無理なく入浴できるよう支援している。	入浴は利用者の希望に沿って、いつでも入浴できるよう支援している。毎日入浴を希望する利用者は2名で、他の殆どの利用者は2日に1回の入浴を希望している。入浴を嫌う利用者もあるが、声かけやタイミングを工夫し、2日に1回は入浴につなげている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お天気の良い日は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはお茶などを提供しながら話を聴き、安心して眠れるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるよう努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生きがいに繋がるように支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日、事業所周辺を散歩している。気候の良い時期は、ドライブに出かけており、歩行困難な利用者も一緒に外出している。	事業所周辺には広場もあり、天気のよい日は全利用者が散歩に出かけている。敷地内の畑で野菜の世話をする利用者もいる。家族の協力による理美容院への外出、地域のイベントへの参加、季節ごとの花見、弁当持参での外での食事、買い物など外出の機会を多く作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が管理しているが、買い物や外出時には、本人が直接支払いできるように支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が出来る方は御家族に連絡し、話ができるように支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇には季節の花を植えたり、壁には利用者の似顔絵や職員の顔写真を飾り、暖かい雰囲気を出す工夫をしている。また、ソファやベンチを置き、思い思いにくつろげるようにもしている。	周囲が山に囲まれた静かな環境のなかで騒音もなく、共用空間の清潔を保ち、置物や手芸品、季節の花などを置いて季節感と落ち着いた雰囲気を作り、廊下の壁には写真や似顔絵を飾って空間に和やかさを与える工夫をしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関外や廊下や庭に木製ベンチを置き、いつでもどこでも座って会話ができるようくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたタンスやテレビを置き、好みの人形や花を飾ったりしている。壁には孫の写真や手紙、小学生が訪問のとき書いた利用者の似顔絵を貼るなど、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫をしている。	入居時に、利用者の馴染みの品や愛用品の持参を勧めている。筆筒、テレビ、人形、本箱など、それぞれの持参品で個性のある居室になっている。壁には孫やひ孫の写真が多く、また、小学生が描いた似顔絵を飾って親しみのある、居心地のよい居室づくりをしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保しながら自立した生活が送れるように環境などを整えている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：やまがら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とできるような取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合い、生かせるように取り組んでいる。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加したり、小・中学生に訪問していただき交流を深めている。中庭の畑づくりを通して、デイサービス利用者とも交流できている。近所からの野菜等の差し入れもある。避難訓練には地域への声かけもし、参加してもらっている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の御家族の方や病院の医療相談員、居宅介護支援事業所からの相談なども受けている。また、地域ケア会議にも積極的に参加している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内部監査や実地指導等の結果も報告している。会議で出た意見や検討事項については、職員会で報告し検討している。頂いた意見に対しては実行できるように取り組み、次の会で経過報告をしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議をきっかけに連携が密に図れるようになり、小さなことでも気軽に相談できる関係が築け、すぐに電話などで確認をとるなどし、サービスの向上につなげている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、法人内の研修に参加し、研修内容をスタッフ会で共有している。言葉による拘束もしないよう、拘束感のない言葉がけに取り組んでいる。日中は施錠せず、自由な生活ができるよう見守り、寄り添うケアをしている。		

7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会などで事例を用いて話し合いを行い、身体拘束をしない尊厳を支えるケアを提供できるように取り組んでいる。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人全体で取り組んでおり、勉強会を受けた職員が伝達者になり職員会で周知をしている。入居の折に保証人様に説明をしている。現在、利用はないが必要に応じて援助できる体制を確保している。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>申し込み時や契約時に文書を見ながら時間をかけて、質問疑問等は解決できるように説明し同意を得ている。また、随時電話等でも相談を受け付けている。また改定時にも同様に同意を得ている。</p>		
10	(6)	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年3回設け、苦情や要望はないか確認し、また、ご家族だけで話し合う場も設けている。苦情は事業所にとって宝と考え、改善するように取り組んでいる。家族会で出た問題は職員会、運営推進会議でも取り上げて話し合いをしている。</p>		
11	(7)	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。</p>		
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた法人の勉強会へ参加している。 年2回の人事考課を行い、向上心が持てるよう働きかけている。個別面談を行い、ストレスを一人で抱え込まないよう支援している。また、法人内にも相談窓口を設けている。</p>		

13	<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。</p>		
14	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の他のグループホームとは、毎月勉強会を行っている。外部への研修にも積極的に参加し、情報交換している。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には必ず面接を行い、不安を軽減できるように努めている。また待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるよう配慮している。</p>		
16	<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>御家族の介護不安や状況をよく聞き取り、把握し気軽に相談ができるよう努めている。</p>		
17	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>地域包括支援センターや居宅介護支援事業者などを通じて相談が多く、緊急性のある方については、法人内、外と連絡調整し入居できるように迅速な対応をしている。また、市町村にも困っている方の相談、受け入れをしていただくように働きかけている。</p>		
18	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の言動や行動からその時の想いを探り、根本にある喜びや不安などを理解するよう努めている。また、一緒に生活することで入居者様に教えられることも多い。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>御家族にも可能な限り、利用者の生活に関わっていただけるように支援している。また、御家族ができることを申し出ていただくことも多く、事業所と御家族が協力関係のもと利用者の人生を支えるよう取り組んでいる。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人との関係が途切れないよう、友人に訪問してもらったり、理美容店の利用、地域の行事への参加など、機会をつくり人との交流の継続を支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>出来ないところは出来る人が補い、お互いに協力しあって生活が出来るように一緒に過ごせる環境や場面作りを行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>御家族から次の施設入居などの相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者がくつろいでいる時間や入浴時に、希望を聞くようにしている。意思疎通の困難な利用者は、表情から汲み取ったり、御家族から情報を得ている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>御本人や御家族、関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞きとり、共有するように努めている。</p>		

25		<p><b>○暮らしの現状の把握</b></p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の行動や小さな動作から感じとり、本人の全体像を把握して本人が出来ることを見出せるよう努めている。</p>		
26	(10)	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の思いを日々把握し、家族の意向は面会時などに聞いて、全職員でモニタリングを実施している。また、担当者を決め、「センター方式」の様式により利用者の状況をより詳細に把握し、介護計画の充実に取り組んでいる。</p>		
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制を活かし、ご本人やご家族様が安心して生活出来るように支援している。</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議をきっかけに地域との関係も密接になり、地域のボランティア、民生委員、自主防災組織などと協力しながら行事や防災訓練も実施できている。</p>		
30	(11)	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時の説明により、利用者、家族の納得を得て協力医療機関がかかりつけ医になっており、月2回の往診以外にも必要な受診を支援している。専門医の受診も必要によりできるよう支援している。</p>		



31		<p><b>○看護職との協働</b></p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師には小さなことも気軽に相談でき、医療機関との連携もとれており、適切な看護、受診ができるよう支援できている。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b></p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。</p>		
33	(12)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの指針に沿って、事業所に対応できるケアについて家族に説明し、同意を得ている。緊急時は、協力医の往診もあり、法人内の看護師の協力も得ている。研修会にも参加し体制整備を図っている。</p>		
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修に参加し、対応方法を身に付けたり、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行い、緊急時に対応できる実践力を身につけている。</p>		
35	(13)	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災・地震の避難訓練を年3回以上、消防署の協力を得て実施している。その他にも風水害なども含め、自主訓練を行っている。避難訓練には地域の方にも声をかけ協力を得ている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b></p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でもプライバシーや尊厳を損ねるような声かけをしないように話しあい、徹底している。</p>		

37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、自己決定をしてもらうことを大切にしている。</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の生活のペースを大切に、畑仕事や散歩など希望に沿ってやりたいことを行っただけのよう支援している。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>基本的には本人の意向で決めており、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿った支援を心がけている。</p>		
40	(15)	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>法人の栄養士による献立だが、利用者の希望や庭で育った野菜など収穫した旬のものを使用し、献立を変更することもある。利用者は下準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。</p>		
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない方には、補食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、管理栄養士とも相談し食の支援を行っている。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔体操や、毎食後の口腔ケアなどを行い、ケアに努めている。口腔ケアは本人の力に合わせ、確認し援助するようにしている。</p>		
43	(16)	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>失禁あるなしに関わらず、日中はトイレ誘導を基本とし、排泄パターンを把握して職員が見守りながら、トイレでの排泄ができるよう支援している。</p>		

44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>体操や家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。</p>		
45	(17)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>利用者の希望に沿い、体調に留意しながら入浴を支援している。入浴拒否のある利用者も、時間や日程の変更など行い、無理なく入浴できるよう支援している。</p>		
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b></p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>お天気の良い日は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはお茶などを提供しながら話を聴き、安心して眠れるよう支援している。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b></p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるよう努めている。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b></p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>出来ることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生きがいに繋がるように支援している。</p>		
49	(18)	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は毎日、事業所周辺を散歩している。気候の良い時期は、ドライブに出かけており、歩行困難な利用者も一緒に外出している。</p>		

50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には事業所が管理しているが、買い物や外出時には、本人が直接支払いできるように支援している。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話が出来る方は御家族に連絡し、話が出るように支援している。</p>		
52	(19)	<p><b>○居心地のよい共用空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>花壇には季節の花を植えたり、壁には利用者の似顔絵や職員の顔写真を飾り、暖かい雰囲気を出す工夫をしている。また、ソファやベンチを置き、思い思いにくつろげるようにもしている。</p>		
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関外や廊下や庭に木製ベンチを置き、いつでもどこでも座って会話ができるようくつろげるスペースを作っている。</p>		
54	(20)	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b></p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には自宅で使用していたタンスやテレビを置き、好みの人形や花を飾ったりしている。壁には孫の写真や手紙、小学生が訪問のとき書いた利用者の似顔絵を貼るなど、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>		
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b></p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全確保しながら自立した生活が送れるように環境など整えている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				